

千曲市復興計画住民説明会① 議事録（要旨）

○開催日時 : 令和3年1月16日（土）午後3時～6時

○開催場所 : 千曲市役所 301 会議室

○出席者 : 小川市長
大内総務部長、竹内企画政策部長、島田市民環境部長、竹内建設部長、
齊藤経済部長、小林企業立地担当部長、荒川健康福祉部長、
中曽根次世代支援部長、滝沢教育部長、堀内議会事務局長

○参加者数 : 市民 24 名、報道関係者 2 名 計 26 名

1. 開 会

2. 市長あいさつ

本日はお忙しい中、千曲市復興計画の住民説明会にご出席頂き、誠にありがとうございます。

令和元年東日本台風による被災から約1年3か月になりますが、被害の大きさから、いまだ元通りの生活を取り戻すことができない方もいらっしゃいます。あらためまして被災者の皆様に心からお見舞い申し上げます。

災害からの復旧・復興を進める中で、世界的な、今なお猛威を振るう新型コロナウイルスの発生・感染拡大により、市民生活は再び大きな影響を受けることとなりました。

そうした状況下ではありますが、市民の皆様が再び安心して生活できる千曲市とするため、千曲市復興計画を策定致します。

計画策定にあたりましては、被災地区での説明会や地域懇談会、市民アンケートによって市民の皆様のお考えをお聞きするとともに、地域の代表や有識者、公募の委員から構成される復興計画策定委員会からも幅広いご意見を頂きました。

また、昨年10月に実施したパブリックコメントに寄せられた意見も反映して、このたび計画案を作成致しました。

本日は、この計画案の説明をさせて頂きまして、さらに多くの皆様から計画案に対するご意見をお聞かせ頂くことを目的としております。

コロナ禍においてこのような説明会を開催することには否定的なご意見も頂戴しておりますが、同時に早期開催を強く望むご意見もありましたことから感染症対策を徹底して開催しました。

参加者の皆様におかれましても、感染症対策の徹底にご留意頂きますようよろしくお願い申し上げます。

結びに復興計画に盛り込んだすべての施策を市民の皆様のご協力を頂きながら全力で取り組んでいくことをお約束致しまして、挨拶とさせていただきます。

3. 千曲市復興計画（案）の説明

（事務局より計画策定の経過説明）

・市では「市民生活の早期安定」と「被災した施設の原状回復」の二点を目的とした「復旧計画」、中長期的な視点で、今後策定する「千曲市総合計画」の「安全安心なまちづくり」への指針とするための「復興計画」、というように目的を分けて計画策定を進めてきた。

・昨年3月末には、「住まいと暮らしの再建に関わる支援事業」や「道路・公園などの公共施設の復旧工事」に関わる「千曲市復旧計画」を策定し、ホームページに公開するとともに、計画に沿って、事業を進めている。なお、「復旧事業」の進み具合は、毎月ホームページに進捗状況を掲載することでお知らせしているところ。

・「復興計画」は当初、昨年8月末の完成を目標に、「復旧計画」策定後の4月に「千曲市復興計画策定委員会」を立ち上げたが、コロナウイルス感染症による会議の延期や、市長選挙と重なったことによる説明会の延期などで策定に遅れが生じてしまった。この場を借りてお詫びしたい。

・「復興計画」は、「住まいと暮らしの再建」「安全安心なまちづくり」「産業・経済支援」の三つの基本的な方針で構成し、千曲市民の生活への支援や災害に強い社会基盤の整備、また千曲市の産業の振興や経済成長などを図るために、今後どのような施策を行うかを計画したものとなっている。

・この計画案は、策定委員の皆様とともに、国土交通省北陸地方整備局千曲川河川事務所副所長様、長野県千曲建設事務所長様にもアドバイザーになって頂き作成したものの。

（事前に配信した動画を使った計画内容の説明）

（感染症対策のため換気及び暫時休憩）

4. 質疑応答

(質問者①)

- ・新田、八幡に大型土のうを設置した理由は、千曲川の流下能力がオーバーしたためだと思うが、おおよそどの位の水量が逆流したのか。
- ・逆流した水を大型土のうで遮断すると、本川の水位が上がる。どの程度水位が上昇することを想定しているのか。
- ・「東林坊川の分水等による調整」とあるが、この分水によりどこに水を振り分けることを想定しているのか。

(回答：建設部長)

- ・千曲川からの流出量はなかなか把握できるものではなかった。ただ、資料の大型土のう設置前後の図をご覧頂くと、新田、中、杭瀬下、粟佐の部分で浸水深さの色分布が変わっていることが分かる。大型土のうで水を止めた場合には、この色が変わった量の水を抑えることができるということ。ただし、これは尾米川ポンプ場、伊勢宮ポンプ場から千曲川へ排出できない場合となるため、内水氾濫は起きている状態であると考える。と考えて頂きたい。
- ・大型土のうについては、信州大学の豊田先生に監修協力頂き、コンサルタントにより計算をしたところ、基本的には千曲川の水量自体はおおむねそれ程変わらない。大型土のうで止めたからといって水位が何十センチと上がるものではないとのことだった。
- ・東林坊川については、尾米川、新田用水のショートカットのため河川改修を実施しているところ。今後「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト（以下、「治水プロジェクト」という）」の中で遊水地整備が行われるが、東林坊川の所にもう一本堤防を築いて下流へ流す計画がある。その中でショートカットができるのではと考えており、今後検討していきたい。

(質問者①)

- ・東林坊川は上流の方に流すということか。仮に五十里川など下流に流すとすれば、新田や杭瀬下の代わりに雨宮のあたりが水浸しになってしまう。
- ・大型土のうの設置では千曲川の水が上がらないということだが、先の台風では実際に越水が生じている。これ以上水位が上昇すれば破堤してしまい、雨宮だけでなく屋代や森も水浸しになる。その点についてももしっかり対策して欲しい。

(回答：建設部長)

- ・東林坊川は五十里川から分水させて、ショートカットさせて千曲川へ早く水を出すようにするというイメージ。そうでなければすべての水が雨宮に流れてしまうが、それは避けなければならないと考えている。
- ・大型土のうにより水位が上がるということについて再度質問があったが、現在国土強靱化

の中で、土口水門の下流でおおむね 10 万 m³の堆積土砂を除去したところ。これから徐々に河川の掘削が始まる。それと併せて色々な対策をしていきたい。霞堤の中に水が溜まらないという訳ではなく、かなりの量の水が溜まる。それだけの面積で水が溜まるのであれば、それほど下流に影響が出ないだろうというのがコンサルタントと豊田先生の解析。

(質問者②)

- ・大型土のうを実際に見たが、隙間がある。どの程度の効果があるのか。
- ・霞堤が役割を果たすには、深く掘削する必要があるが、現状は田んぼや工作物などがある。公的に土地を確保すべきではないか。

(回答：建設部長)

- ・以前新聞折込でお知らせしたが、大型土のうの隙間は日常の農地作業のために空けてある。台風災害に関しては、最近では二、三日前には予測が可能であることから、災害の可能性が分かった段階から隙間部分にも大型土のうの設置を始める。最終的に、千曲川の水位が予想以上に上がってくると判断した場合には、川の方にも大型土のうを設置して堰き止め、仮設ポンプで対応していく。
- ・霞堤については、本堤防と同じような高さで周囲を囲んで遊水地を作る予定となっている。この遊水地は、千曲川の水位がおおむね 5m 前後になると水が流れ込むような形状となる。千曲市の中・新田地区、八幡地区、長野市の塩崎の三か所に遊水地を整備し、そこでどの程度の水を貯めるかを確定する。その必要量によって遊水地内の土地をどうするのか検討していくことになる。掘削の必要がなければ地役権を設定して有事の際に利用するし、掘削の必要があれば買い上げることになるが、まだ国土交通省では結論が出ていない。分かり次第皆様にお伝えしていく。

(質問者③)

- ・治水対策の共通事項として、千曲川の河道掘削への要望がある。治水プロジェクトでは令和 9 年度を目標としているが、実際にはいつ実施されるのか。
- ・杭瀬下の排水機場のポンプを見学した際、三基あるうちの二基しか動いていなかった。今はどのような状況か。

(回答：建設部長)

- ・河道掘削を含めた河川改修のネックは「立ヶ花狭窄部（中野市）」と「戸狩狭窄部（飯山市）」であり、ここを改修せずに掘削を進めると、中野や飯山で破堤してしまう。河川管理者である国土交通省は色々な計算をしながら進めているところ。

立ヶ花については今年の 2 月に河道掘削を始める予定だが、効率的な掘削を検討しながら進めていく必要がある。最終的に令和 9 年度までに、立ヶ花・戸狩両狭窄部で

9,000トッが流れる断面を作ることを想定している。治水プロジェクトの令和9年度とはこのことを示しており、その他の箇所での河道掘削は並行して順に進めていくことになる。国の予算が決まらなると具体的な箇所は示されないが、今年の6月までには着工したいというのが千曲川河川事務所の意向。

- ・現状でも稼働しているのは二基のみ。三基ある理由は、杭瀬下の土地区画整理もあり、これから宅地が増えることが予想されていたため。しかしながら、人口減少から宅地化があまり進まなくなり、今のところ二基で十分間に合っている。

ただ、大変申し訳ないが、千曲川が杭瀬下水位観測所でおおむね5mを超える水位となると、ポンプを動かすことはできなくなる。これは下流に住む方を守るためでもあり、ご承知おき頂きたい。

(質問者④)

- ・地域版防災計画の推進について、ここで言う「地域」とはどういったものか。
- ・千曲市防災ガイドブックが改訂・配布されるということだが、これは地域版防災計画に則した内容で作成されるのか。またそのガイドブックはいつ頃配布されるのか。

(回答：総務部長)

- ・地域については特に定めてはいない。それは各地区での実情に合わせて計画を策定して頂きたいため。例えば一つの区で作るところもあるし、稲荷山地区であればいくつかの区が同じ地区として一緒に作るという機運が上がっているところもある。臨機応変に対応したい。

- ・ガイドブックの全戸配布は今年度中を予定している。内容としては、1,000年確率のハザードマップや最新の防災に関する考え方を入れたものとなっている。

地域版防災計画との兼ね合いとしては、防災計画の内容がすべて盛り込まれているものではなく、新しいハザードマップなどガイドブックを参考にしながら各地域で計画を作って頂きたいと考えている。

(質問者④)

- ・共助という観点から、地域計画は地域ごとで作るという理解で良いか。また市からはそれに関するデータなどを提供してもらおうということが良いか。

(回答：総務部長)

- ・おっしゃる通り。というのも地域によって大分状況が違う。例えば山手では洪水よりも土砂災害の方が大変となるなど実情が異なってくる。そのため市が画一的に計画を示すのではなく、地域で実情に合わせて作って頂く。当然、市はそのためのデータを提供したり、職員が出かけてバックアップをさせて頂く。

(質問者④)

- ・出前講座については、市側から意識向上のための研修などを開催してもらえるのか。

(回答：総務部長)

・出前講座については幅広く考えている。マイタイムラインの作成をお手伝いしたり、市の防災の状況をお知らせすることも考えている。また、先ほどの防災計画を作成する際にアドバイスさせて頂くことも考えている。

(質問者⑤)

・先ほど話のあった排水ポンプについて、当時の水位は 6.4m になっておりポンプは停止していた。それは国から言われたことだと思うが、実際に災害が起きている状況でなぜポンプを動かすということができないのか。その状況を我慢しろということなのか。

・堤防の嵩上げや、河床の掘削などの対策も真剣に進めてもらわなければ困る。

(回答：建設部長)

・千曲川の水位が一定以上になった場合、河川法によって排水を止めるよう国からの指導がある。そうは言っても、災害救助の中で必要となれば仮設ポンプなどを利用してでもやっていくつもり。ただ、長野市の長沼での決壊があったように、いつまでも排水を続けて良いのかということは流域全体で考えなければならない。

・国への要望は行っている。先ほど土砂の除去についてお話した土口水門の下流は市の河道掘削のネックで一番土が溜まりやすい箇所。国に対してお願いすべきことはお願いしている。

治水プロジェクトの中では、今年度はダムの事前放流が実施され、貯水量を確保するという点では、ある程度の効果があったと思っている。

市も、国に頼り切りではなく千曲川への排出を若干でも遅らせることで水量を減らすべく、ため池や水路に水を溜めるといった工夫も検討していく。

(質問者⑥)

・公園・体育設備の復旧について、河川敷の施設は毎年のように水を被っている。毎回国の負担で復旧しており、市の財政は痛まないかもしれないが、国費も税金。そろそろ毎年の復旧などではなく、恒久的なグラウンド、野球場を建設すべきでは。

(質問者⑦)

・関連して、堤防を新しく作るのではなく、今ある河川敷の公園をすべて撤去することで同量の貯水量を確保できるのでは。

・先ほどの排水機場のポンプについて、見学をしたが、水門から出す方式では水は出せない。土手の上から出す方式に変更しなければならない。

・粟佐にはもう一つ霞堤があったが、粟佐橋を作る際に霞堤を止めてしまった。それにより水の流れが悪くなったのでは。

(質問者⑧)

- ・関連して、災害の時だけでなく、平常時でも千曲川の土石を取るべきと考える。
- ・千曲川はもう限界にきているので、水を流さないような工夫をすべき。ダム of 事前放流も良いと思う。また、長野県には大きな施設や住宅を作った際に、水を溜める設備を設置するという条例がないので、県に対して条例化を働きかけるべき。
- ・沢山川にダムを建造することも真剣に考えてはどうか。

(回答：建設部長・市民環境部長)

- ・国費による公園の災害復旧事業は本当に久しぶりで、堆積土砂の撤去などは国の負担ではなく、おおむね自前でやっているのが実情。

公園を川の中に作るには一定の決まりがあり、規定以上の高さにすることはできない。そのため単純に土を盛って作っているのではなく、入れ替えた形で作られていることはご承知おき頂きたい。その上で、千曲市は6割以上が山か川であり、現在の河川敷にある施設をすべて平地に作ることは難しい。ただし、このような災害が今後も続くのであれば検討が必要と考えている。

- ・尾米川排水機場のポンプを堤防の上から排水する方式にということだが、実際には難しい。国に対して相談をしてもそのような方式でのポンプ設置の許可は下りない。

現在設置されているポンプは、千曲川との水位差を利用して排水するものだが、千曲川が一定以上の水位になれば水が出せなくなる構造。河川事務所の考え方としても、それ以上の排水は避けるべきというもの。ただ、市としてもポンプ場の改築時期が来れば国と話をしたいと考えている。

- ・粟佐橋の霞堤の件について、粟佐橋を作る以前にすでに霞堤は閉鎖されていたので、粟佐橋を作ったから閉じたということではない。

- ・ダム of 事前放流についてはプログラムの中で様々な契約で実施しているところ。また、県が管理する上田から上流の部分でも、県で遊水地を整備するという話も聞いているので、ダムと合わせて流出を抑える機能を考えている。

- ・貯水機能を条例で定めてはどうかということについては、一定以上の開発行為に対し、基本的にはこのような機能を備えるようお願いをしている。例えば現在造成中の雨宮産業団地も貯水機能を備えているし、大規模な団地を造成する場合にも規制をかけているところ。

- ・住宅の雨水貯留タンクの普及促進として、市では補助金制度を進めている。今後も流域全体の治水としてPRを続けていく。

(質問者⑧)

- ・貯水槽の設置については、「お願い」ではなく条例として欲しい。県単位で考えて欲しい。

(質問者⑨)

・沢山川の堤防の嵩上げを県に要請しているとのことだが、それよりも排水機場を設置した方が効率が良いし、千曲川の負担も減るのでは。

(回答：建設部長)

・一般的な堤防はバック方式というもので、千曲川と支川の堤防を同じ高さで作った上で一切水門を設けないというもの。

対して沢山川は、セミバック方式と呼ばれており、水門を付けた上で中途半端な高さの堤防となっている。これは、堤防建設当時は現在よりも農地の価値が大きく、用地の買収面積が少なく済むこの方式となったもの。そして、このセミバック方式の堤防はポンプが設置できない構造となっているため、国にお願いをしても難しい。

そのため、現状では堤防を嵩上げして水門を撤去して頂くことが一番良い方法ではないかと考えている。

(質問者⑨)

・県とも調整して良い方法を見つけて欲しい。

(質問者⑩)

・千曲川の水位が減少してきたにも関わらず、10月13日午前1時50分頃に市役所周辺が冠水した理由は何か。

(回答：建設部長)

・当時の千曲川は、杭瀬下水位観測所の水位経過として、おおむね10月12日19時前から翌日2時位まで計画高水位5.42mを超えた状態で推移していた。

1時20分頃までポンプを動かすことができない状態であり、その間出てきた水が徐々に溜まってきたという状況。

(質問者⑩)

・そうではないと思う。私の推論では五十里川、埴科幹線水路の水門があるが、そのすべてで水の流れを尾米川ポンプ場に向けたのではないかと考えている。そしてその指示を出したのが市役所なのではないか。たとえ市の指示がなかったとしてもそういった類の申し合わせがあるのではないか。

理由として、以前は浸水被害が多かった五十里川沿いに今回は被害がなかったこと。

また、復興計画策定委員会の議事録にある通り、埴科幹線水路には新田用水へのバイパスがあり、そこから尾米川に水を流すことができること。この埴科幹線水路の沿線も浸水被害がなかった。

そして杭瀬下地区で被害が大きかったのは、そういった上流の水を尾米川ポンプ場に流したため、本来カバーできる範囲を超えたためでは。実際、市から出ているポンプ場のパンフレットに書かれている概要と実情が異なっている。市の中で危機管理の

情報共有はできているのか。

(回答：建設部長)

- ・五十里川と新田用水の水門は災害当時開けたままになっていた。なお、新田用水と五十里川では、新田用水の方が河床が高くなっており、基本的には五十里川の方へ水が直進するような作りとなっている。そのため、別段五十里川の水を新田用水へ流している訳ではない。
- ・新田用水からバイパスで尾米川に流せることは事実。尾米川排水機場のカバーする範囲との関係については確認を行う。
- ・埴科幹線水路は坂城町の頭首工から取水をしており、最終的に森・倉科方面へ流れていくもの。台風時には坂城の頭首工部分を閉じているためそちらからの流入はない。

(後日回答：都市計画課・農林課)

・丸善食品工業(株)様西側にある五十里川と新田用水の分水門は災害当時（ほぼ常時）を含め、通年開けたままになっております。この分水門では、新田用水の河床が五十里川の河床より高い構造になっており、五十里川を流れる水位が上昇し、新田用水の河床の高さになるまでは水が五十里川下流へ直進する作りとなっております。したがって、五十里川下流へ向かうべき水を、水門操作で意図的に新田用水へ流しているということはありません。

・新田用水から尾米川に流すバイパスにつきましては、新田のクリーニングみやさか様西側にあります新田用水の分水門から尾米川へ市道千曲線を横断する暗渠がございます。

この分水門は、地元新田区に農業用水としての管理をお願いしていますが、今回の台風時に水門を開けるよう市から指示は出しておりません。また、水門が閉じられていたことを新田区から確認しており、この場所から尾米川に水は流れ込んでおりません。あくまでも用水期の集中豪雨等の緊急対策としての水路となっております。

・パンフレットに記載してあります通り、五十里川や埴科幹線水路、新田用水の水は尾米川排水機場のカバー範囲に入っておりません。

水の流れを整理させて頂くと、五十里川や埴科幹線水路から分水された水は、東林坊川を通過して千曲川へ排水しております。

なお、埴科幹線水路につきましては、台風に備え、前日より千曲川からの取水を停止しておりました。そのため当時幹線水路内の水は、開口部に降った雨が流れたものであったと考えております。

(質問者⑩)

- ・あります。戸倉地域の水は側溝を伝って埴科幹線水路に流れ、それが最終的に尾米

川に流れ込むはず。

(回答：建設部長)

・埴科幹線水路の開口部は戸倉上山田中学校の横などのグレーチングの部分のみ。道路勾配自体は中央部に地下埋設してあることから、すべてサイドへ流れるためそれ程落ちることはない。他の部分も埴科幹線水路に雑排水や側溝の水を流しているところはほぼない。

台風当時もその水が満杯で流れていたといった情報はなかった。新田用水への分水も、水路はつながっていても、当時そちらに水を回していたという情報はあがってきていない。

(質問者⑩)

・私は市の担当者から聞いているので、それを確認して欲しい。

(回答：建設部長)

・承知しました。

(後日回答：都市計画課)

・担当者に確認しましたところ、五十里川の水が新田用水に分水されている旨の話はしたようですが、先ほどもお答えした通り、分水門の構造から基本的には五十里川下流へ水が直進するような作りとなっておりますので、五十里川の水を新田用水へ意図的に流していたという事実はございません。

(質問者⑩)

・洪水があった場合に新田用水の水を尾米川に流すという話は地域の人知っていること。もしそれが違うというのであれば誤解を解く必要があるのでは。

(後日回答：農林課)

・クリーニングみやさか様西側の分水門の開閉につきましては、新田区と、水利権に関係する事柄について、それぞれの水系の渇水対策や、下流の水路工事などの特別な事情がある場合に実施するという取り決めになっております。台風時にも水門は閉じられていたことから、尾米川に放流されてはおりません。

(事務局)

・回答はしているが、実情の把握が必要。確認して改めて回答という形で良いか。

(質問者⑩)

・後日私に回答して欲しい。

・今回の台風では杭瀬下地区の被害が甚大だった。沢山川や更級川の沿線と比較して

桁が違う被害であったことを記憶しておいて欲しい。

5. 閉 会